

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリー	参加者の意見要旨	町の考え方
1	職員の休憩スペース 職員がくつろいで自分自身をホッとできる時間がもてる、という点は住民にとっても重要と考える。	職員のための休憩スペースを設けるべきといった声は、職員以外からも多くいただいていますので、住民サービス向上の観点からもしっかりと検討していきます。
2	実際に働いている現場の職員の声を聴いているか。使い勝手の良い建物になるように。	職員に対しても、随時説明会や窓口ヒアリングなどによる意見聴取を行っており、計画に反映するよう努めています。
3	職員が仕事を行うことがメインのため、仕事がつらいようでは困る。町民は公民館として使いやすいように。	
4	庁舎 駐車場から施設への動線 1階で対応する部署、2階で対応する部署をどう考えているか。配置を考えた動線の再考が必要では。 エレベーターの位置と台数が心配 車いす使用者、雨天時の施設へ入る配慮をしているか。	1階は窓口業務を中心とする課、2階はそれ以外の課の配置を検討しています。 エレベーターについては、ご意見を踏まえて、位置だけでなく台数についても改めて検討します。 車いす使用者の駐車スペースについては、玄関近くに確保しています。
5	軽井沢病院との連携 軽井沢病院と連携を図りながら、新庁舎としての役割（健康相談窓口など）は考えているか。 ドクターヘリの着陸場所の確保	現在各施設に分散している窓口を新施設にできるだけ集約する検討をしていますので、軽井沢病院との連携を含めた住民の利便性の確保は図れると考えています。 また、ドクターヘリについては、検討もしましたが、着陸の諸条件が整わないため断念した経緯があります。
6	会議室 コンプライアンスの面からも職員との懇談ができるちょっとした個室程度の部屋が必要。	職員からの意見も踏まえて、1階執務室の周辺に2、3人用の相談室を設置するよう検討しております。
7	茶道のできる和室 現在活動してる茶道教室は継続できるのか。 茶道具の収納場所も考えられているのか。	茶室としての備えは必要と考えますが、他用途との併用の可能性や利用頻度等も考慮しながら検討してまいります。
8	ホールの収容人数は。	現在の中央公民館の大講堂の収容人数と同規模の300人程度を想定しています。
9	交流センター 文化活動について 文化活動の拠点として、設備、機材は充足されるか。 音楽活動が盛んで同日に数団体が活動することもある。音楽スタジオも設置されているが、他の部屋も使えるよう、防音設備を充実してほしい。大賀ホールは敷居が高いイメージよりも設備が足りないのでは使えないということ（ミュージカルなどには使えない）。	すべての要望に応えることは難しいですが、可能な限り設備、機材、備品等は対応したいと考えています。 また、音楽スタジオ以外の防音設備についても、ご意見をもとに検討します。
10	交流センター 中軽井沢商店街と新施設（交流センター）が互いに協働して賑わいをつくる方策は。 今まで公民館を利用していない人（新たな利用者）をどう集めるか。	現在町では、中軽井沢の駅前商店街、湯川、長倉神社から新庁舎周辺も含めたエリアについて、官民連携でのまちづくりを進めています。ご意見の新たな利用者については難しい課題ですが、そういった活動との連携はもちろんのこと、地域住民や民間事業者を含めた民間活力の導入も検討しています。 なお、民間ありきの話ではないこと、収益を求める施設ではないこと、民業圧迫になるようなものでもないことを念頭に置き、町が直接管理運営するよりは、民間に管理運営をしてもらうほうがメリットが大きいと判断した場合には、力を借りるような考えとしています。

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリー	参加者の意見要旨	町の考え方
11	イベントスペース 音楽、芸術、映画など目的に町民が借りられるスペースを知りたい。	講堂（ホール）について、ご意見のような使い方ができるよう検討しています。その他、多くの住民の皆様に使っていただけるよう様々な活動に応じた諸室を検討しています。
12	カフェスペース 若者、友だちがちょっとした空き時間に交流できる所がほしい。	ご意見のとおり、ラウンジ、展示スペース、浅間山が一望できるスペースなど、様々な交流が行える開かれた場所を計画しております。“ここに来れば常に誰かがいる、何かをしている”といった「まちと人」、「人と人」をつなぐ交流の拠点となるよう検討しています。
13	職員の利用するスペースと町民及び公共のための面積について基本構想時と基本計画での比較があれば教えてほしい。同規模自治体との比較は。	令和7年3月に策定した基本計画の57ページから59ページに部屋ごとの比較表の記載がありますのでご確認ください。 同規模自治体との比較については、自治体ごとの考え等もあり、単純に比べられないこともあります。成功例・失敗例それぞれ参考にさせていただきます。
14	公民館機能と庁舎が一体となったことと、公民館機能の部分を庁舎機能に行くときに通ることで活動が目に入り、新たな活動につながると感じた。	一体化のメリットをより一層感じていただけるよう更に検討してまいります。
15	トイレについて 多目的トイレはウォシュレットなどあってもいいが、それ以外は流すだけのものでよい。	ご意見として賜ります。
16	議会のスペースの有効活用 議員は常時使うものではないので広くスペースをとる必要はないと思う。また、広くスペースをとるのであれば共用可とするように。	議会エリアの有効活用については、議会と共に検討を進めています。
17	建築コストについて どのようにしたら、50%（例えば）くらいまで削減できるか。	建築コストについては、なるべく下げられるよう設計者と共に検討しておりますが、限度もあることをご理解ください。
18	建築後の維持管理 合体させた大きな建物になるので、無駄な電気代生じるのでは。中外の採光で省エネできるのでは。 100年先のことを考えて良いものをつくるべき。	無駄な電気代が生じないように2施設を一体化するという一面もあります。ご意見のとおり、採光による省エネも検討していますし、「100年後の風景をつくる緑の中の建物」をコンセプトに計画を進めています。
19	金額がかかったとしても50年、100年持つものを作るべきである。	
20	50億程度のプランの作成は行ったのか。	50億円のプランの作成は行っておりませんが、金額と内容を加味しながら検討を進めてきております。
21	町では環境政策に取り組んでいるが、先日も企業も絡めて広域的に「CO ₂ 排出実質ゼロ」に取り組む宣言をしたが、当然ながら、この新施設建設もZEBを目指すべき。 CO ₂ がどのくらい減るのかなど、数字で示した表のようなものはないのか。	ご意見のとおり、『ZEB』を目指すということについての認識は同じですが、本事業においては、施設単体というよりもっと広域的な視点で捉えるべきとの考えから、基本計画においても「現時点では『ZEB』ではなく、ZEB ReadyからNearly ZEBを想定」することで方針を決定しています。先日「浅間ゼロカーボンコンソーシアム」の発表もありましたが、一つの町だけでなく、様々な自治体、企業と一体となって進めていくこととしており、本事業においても環境課と連携しながら進めていきたいと考えています。 また、数字に関しては、設計が終わったところで、お示しできるものはお示しします。
22	災害が発生したら、生活等の不便を感じないでいられるか。 能登半島での震災の際、インフラが途絶えて緊急時に備えられなかった事例があるが、どのように考えているか。非常用発電機の燃料は油でなくガス等を考えているか。 環境負荷に対応すべき	万が一の災害に備え、さまざまなライフラインの途絶への対応を検討しております。7日間庁舎機能の維持・継続ができるよう、電力、通信、水道、下水、食料等、バックアップ体制を整え、災害時のライフラインを確保できるよう進めています。 また、非常用発電機の燃料については、法律上の制約や、燃料の安定供給の観点から化石燃料を使用する計画としています。

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリー	参加者の意見要旨	町の考え方
23 防 災	南海トラフ地震により、富士山や浅間山の同時噴火が起こりうる報道がされた。 万が一、浅間山が大噴火が起きたらときどのように考えているのか。	大規模噴火が発生した場合は、全町避難が想定され、災害対策本部も災害規模に応じて別の場所に移すことになります。
24	災害防災拠点として、何人避難を想定しているのか。	国の指針により、1人あたり3.5㎡の居住スペースを確保することになっています。避難所とする部屋の面積がまだ確定しないため、正確なことは言えませんが、およそ避難者350人、職員250人で計600人程度を見込んでおります。
25	レイアウトについて 広々としたおしゃれな設計だが、機能的なものにした方がよい。車が不可欠なので、駐車場を広くとるべき。おしゃれな広場は必要ない。	駐車場については、緑の中の庁舎というコンセプトのもと、自然環境との調和を図りつつ十分な台数を取れるよう検討しています。
26	夢のある場所だと感じる。	更にご期待に沿えるよう検討してまいります。
27	建物の形について このような形にした理由、メリットは。特異な形に思える。 将来の増改築への対応は。	建替えにあたっては、軽井沢の歴史を踏まえた「質実剛健で品格のある“軽井沢らしい建物”」を目指しております。「四角のビルのような建物で十分」といった意見もありますが、多くの人を惹きつける軽井沢の魅力の原点は、美しい自然とそれに調和した低層建築物が織りなす独自の景観にあります。この景観は、長い月日をかけてここに暮らす人々の手により育まれてきたものであり、軽井沢を訪れる人々に癒しと安らぎを与え、住民にとって誇りとなる財産ですので、「軽井沢町の自然保護対策要綱」の理念をできる限り体現し、他のお手本となるべく、景観や建築デザインの部分も軽井沢の歴史や文化を重視しながら事業を進めて行く中で多角形の案が生まれました。通常考える四角形案と多角形案を建物形状イメージ、定量評価、定性評価といった様々な角度から比較しましたが、前述の軽井沢らしさは多角形案にしか出せないとの結論に至りました。 また、コスト面をみると、四角形案と比較して多角形案は、建設費（イニシャルコスト）は高くなるものの、維持管理費（ランニングコスト）では有利となり、総額（ライフサイクルコスト）でも同等のメリットが見込めることも挙げられます。 最後に、将来の増改築については考えておりませんが、将来対応がし易い可変性の高い施設計画としていきます。
28 計 画	なにがどこまで決まっているのか。	令和7年3月策定の基本計画において、建替えは行うこと、計画地は現庁舎を含む町有地とすること、新施設は2施設を一体化し中庭を配した案とすること、現時点ではZEB Readyを想定すること、施設の規模は概ね9,000㎡とすること等は決定しております。 現在検討しているのは、施設の中身、内容となります。
29 全 般	反対意見はどうなったのか。	どのタイミングでも反対意見はあり、また、すべての意見を取り入れることはできませんが、しっかりと意見を聞いたうえで取り入れるべきと判断した意見を選択し、その都度住民の皆様との合意形成を図りながら進めておりますことをご理解ください。
30	町長の公約が守れないのならリコールも考えるべきではないか。	リコールは町が考えるべきことではありません。
31	この計画について、住民投票をかけることはできないのか。	これまで丁寧な説明を心がけ、住民との合意形成のプロセスを重要視して事業を推進してきておりますので、住民投票は考えておりません。
32	既存の公民館や老人福祉センターを改修すれば40年使えるという意見があったが、それは全く考慮されないのか。	中央公民館をリノベーションする案も含めた整備方法については、様々な形で住民との意見交換の場を設けて議論し、合意形成を図りながら一体化案とする旨決定しておりますので、全く考慮されていないものではありません。

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリー	参加者の意見要旨	町の考え方
33	別荘民は選挙等にかかわることができないが、この建て替えには固定資産税が多く使われてるかと思う。私は年に一回しか使わないのに100億以上使うのはどうなのか。また、見直しをすといっていた町長が当選したにも関わらず、金額が変わらないのはおかしい。	これまでの検討の中で、あくまで現在の状況ですが、見直し前の計画のまま事業を進めていけば総事業費162億円となるどころ、見直しにより総事業費約120億円から125億円（42億円から35億円の減）となっており、決して見直し前と同じではありません。
34	新庁舎の反対派の委員は改修するとの意見を言ったが意見は参考程度にとのことで意見を聞いていない。住民説明会で委員は発言するなといった、言論統制のようなものもあると聞いた。そもそも作るのかを考え直したほうが良い。	庁舎改築周辺整備事業推進委員会の議事録はすべて公開しておりますので、ご一読いただければそうでないことはご理解いただけると思いますが、委員の意見を参考程度で聞かないことはありません。また、言論統制も行っておりません。
35	外庭スペース 大人も子どもも裸足で歩けるスペースはあるか。	新施設の外は勿論のこと、施設にも中庭を設ける予定ですので、緑のエリアを散策するなど、リフレッシュできる空間をつくりながら、裸足で歩ける場所も検討していきます。
36	老人福祉センターについて 現老人福祉センターは解体されるが、新たに老人福祉センターを作って欲しい。 (御代田町は3か所ある。そのうち2か所入浴施設がある。)	これまでもご説明してきており、老人福祉センターの代替施設として木もれ陽の里を整備した経過があり、また、公共施設の維持管理コストの観点からも新たな施設の建設は考えていません。
37	相手に敬意を持った会話をしてほしい。いわゆるカスハラのようなものは控えるように最初に司会から言ったほうが良い。	今後こういった意見交換の場を設ける際には、ご意見を踏まえた対応をします。